Fukuoka 8020 News

福岡8020（はちまるにいまる）ニュース

第7号
平成26年3月

九州歯科大学が行ってきた8020（はちまるにいまる）調査について報告します。

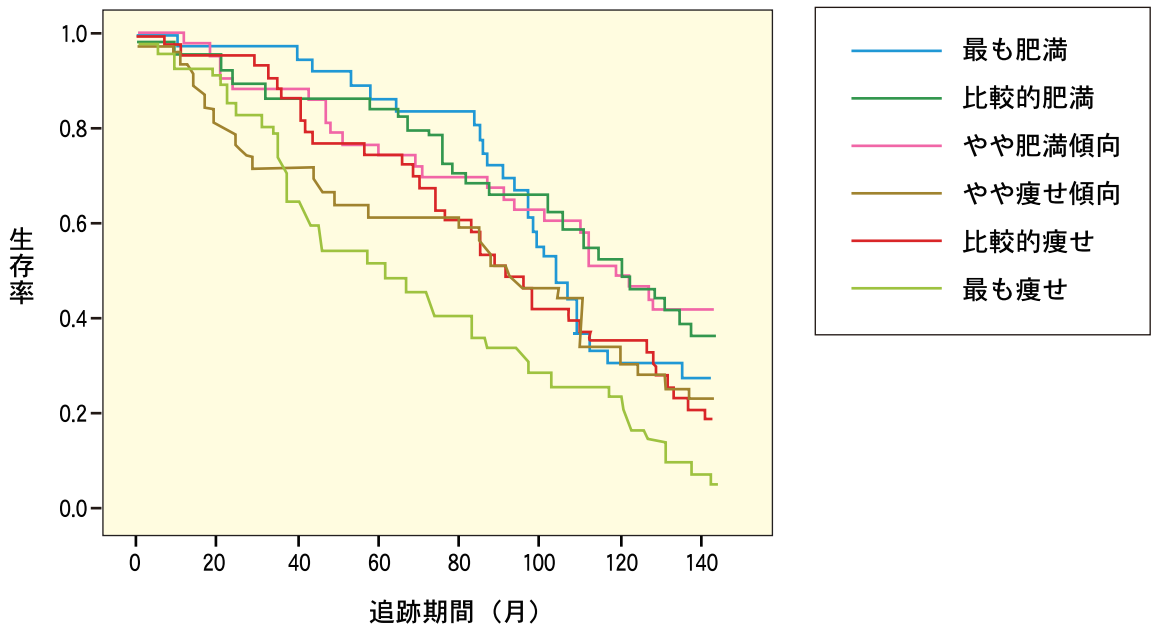
九州歯科大学では平成10年から口腔や全身の健康状態と病気の発生との関連について調査してきました。どのような方が、がん・脳卒中・心筋梗塞・肺炎などになりにくいのか、また長寿なのか、について明らかにしたいと考えています。このニュースでは平成10年に始まった調査研究のうち、コホート追跡研究の結果をまとめましたのでご紹介します。

◆対象者　県内9市町村（当時の行橋市、築城町、勝山町、豊津町、新吉富村、豊前市、苅田町、戸畑区、宗像市）に在住する、大正6年生まれの80歳の方824名（男性305名、女性519名）について追跡調査を行いました。今回の解析では福岡県における80歳高齢者の12年間の追跡調査の結果をもとにしました。

① BMI（肥満度）と死因別死亡率の関係

後期高齢者地域住民の肥満度と死亡率の関係について検討しました。平成10年の調査開始時のBMIで19.5未満（最も痩せ）、19.5から21.1未満（比較的痩せ）、21.1から22.5未満（やや痩せ傾向）、22.5から23.8未満（やや肥満傾向）、23.8から26.0未満（比較的肥満）、26.0以上（最も肥満）の6群に分類しました。BMI19.5未満の最も痩せ群が全死亡率と呼吸器疾患死亡率で最も高値でした。BMI22.5から23.8未満の正常過体重群が最も全死亡率が低く長寿でした。このBMIと死亡率の関係は男性で明らかでしたが、女性では認めませんでした。最も肥満群（26.0以上）では、全死亡率・心血管病死亡率ともに他群に比較して高くありませんでした。逆に、最も肥満群の呼吸疾患死亡率は最も低値でした。癌死とBMIには関係が認められませんでした。

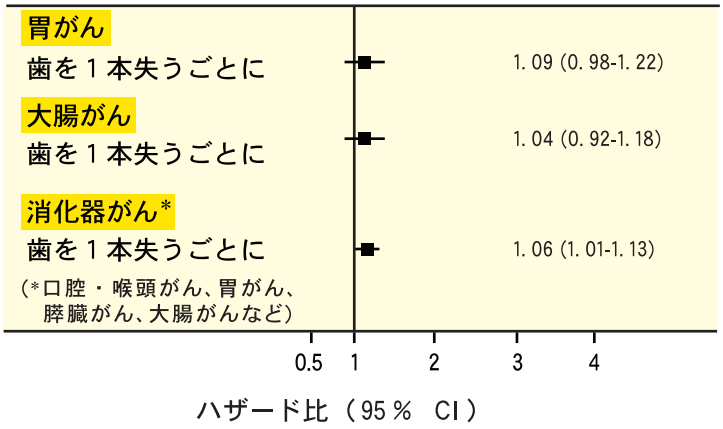
図1　BMI（肥満度）6群別の生存率の推移（男性）



② 歯の数と消化器がんの関係

これまで口腔の健康状態と消化器がん発症との関係についての研究報告は国内外でいくつかみられますが、10年以上にわたって追跡した研究はわが国ではほとんどみられません。そこで、平成10年の調査開始時の歯の数をもとに、歯を1本失うことで12年後の消化器がんによる死亡の確率がどの程度あがるかについて、Coxハザードモデルを用いて検討しました。がんの発症には複数の因子（喫煙、生活習慣や全身の健康状態など）が関与しているため、それらの因子の調整もあわせて行いました。その結果、（歯周病などで）1本の歯を失うことで、胃がんや大腸がんといった消化器がんによる死亡リスクが約6％あがることがわかりました。

図2　歯の喪失と消化器がんの関係



◆ 現状のデータからみえる健康の秘訣は

- やせを防ぐことは長寿につながる。
- 歯の数を保つことは消化器がんの予防につながる。

◆ 参考文献リスト

BMI（肥満度）と死因別死亡率の関係

Takata, Y. et al.：Body mass index and disease-specific mortality in an 80-year-old population at the 12-year follow-up. Arch Gerontrol Geriatr 57; 46-53, 2013.

歯の数と消化器がんの関係

Ansai T. et al.: Association between tooth loss and orodigestive cancer mortality in an 80-year-old community-dwelling Japanese population: a 12-year prospective study. BMC Public Health 13: 814, 2013.

福岡8020調査研究事務局

九州歯科大学地域健康開発歯学分野内

〒803-8580　北九州市小倉北区真鶴2－6－1　TEL：093(582)1131　FAX：093(591)7736

Home page: http://www2.kyu-dent.ac.jp/dept/oral-health

（本ニュースのバックナンバーは“福岡8020ニュース”の項からダウンロードできます）